日本のコモンズ

海編 (1)

日本の沿岸漁業制度の特徴 (しきたりから制度へ)

漁業権 行政庁の免許によって設定された 一定の水面において,排他的に一 定の漁業を営む権利

しきたりの制度化

歴史的に形成されてきた漁村共同体での資源利用 秩序, その存続を認めながら権威化

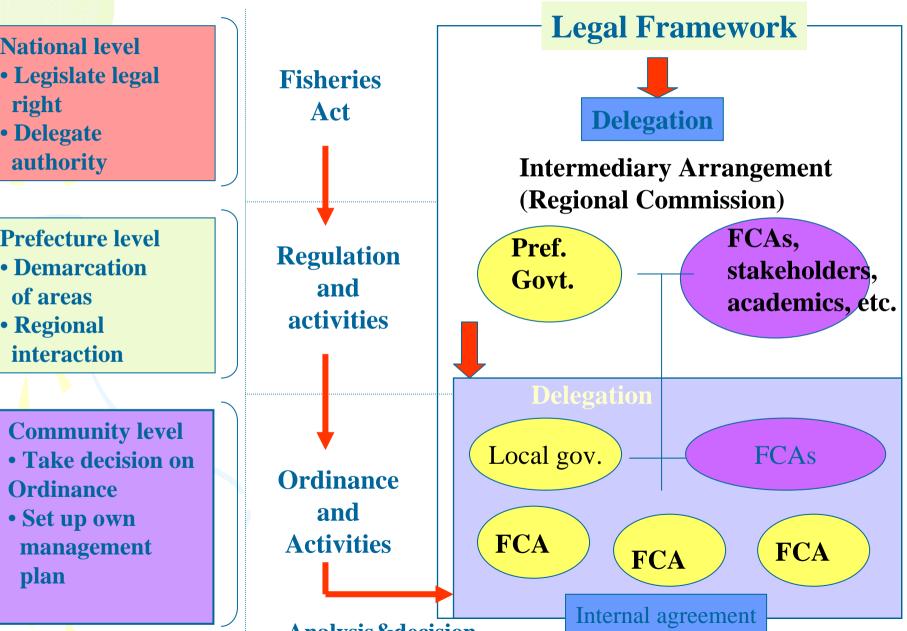
漁業管理制度の成り立ち

3段階制度 (漁業管理制度)国レベル – 県レベル – 地域レベル

1) それぞれの漁業管理レベルの間の関係

2) 漁業協同組合の構造(Fisheries Cooperative Associations, FCAs)

Mechanism of Decentralization in Japan



漁業管理レベルの関係

国レベル 漁業法

- 漁業管理制度の枠組み;規定,禁止事項など詳しくは 設けていない

県レベル 漁業調整委員会(原則的に1県1海区)

- 水面を総合的に利用し,漁業生産力を発展させ, あわせて民主化をはかること
 - 知事に対する諮問・建議はもとより, みずから裁定, 指示, 認定などができる

漁協 (正式) 漁業権行使規則

- 漁場の位置 , 区域 , 漁業種類 , 漁業時期等を規定
- -採捕または養殖の手段,方法等についても制限
- -漁業時期は実態に基づき当該漁業の行なわれる時期を 定めている
- 県レベルの規則より具体的だが,地域の実情等に応じて変更しやすいように配慮されている

漁協 (内部合意) 漁業権行使規則にそって内部合意の形成

- 海域内の生態系, 資源状況, 漁業者の経済状況および 意識に応じて合意を形成
- その合意にしたがって地域漁業を運営・管理していく

漁業権の種類

漁業(制度的分類)

1 自由漁業 小規模な釣り漁業,延縄漁業

2 漁業権漁業 定置,養殖,共同漁業

3 許可漁業 大臣許可漁業(指定漁業), 知事許可漁業

1 定置漁業

(大型のものを対象)

地方の実体によって取り扱いが異なる 一漁期間,一定の場所に漁具を敷設して移動させない で漁業をおこなう

2 区画漁業

水面を区画しておこなう漁業(養殖業)

分類

- 1)海苔,かき,真珠,藻類,魚類
- 2)築堤式養殖,ため池養殖
- 3) 地まき式貝類養殖

3 共同漁業

一定の水面を漁業協同組合で,共同に利用して営むような小規模な漁業

漁協(ないしは連合会)が漁業権を有す

漁協でつくった<u>漁業権行使規則</u>にもとづいて漁民 (組合員)が漁業をいとなむ

地区漁民の入り会に漁場

1) 第1種 藻類·貝類 定着性の水産動物を目的とする漁業

2)第2種 網漁具を移動しないように敷設して営む 漁業

小型定置網,固定式刺し網,敷網,袋待網

3)第3種 地びき網,地こぎ網,船ぶき網 (無動力船を使用)

- 4)第4種 寄魚漁業,鳥付きこぎ釣り漁業
- 5) 第5種 内水面においていとなむ漁業 アユ,こい,わかさぎ漁業など

漁協を単位に漁業権漁業

	A , B , C	
A漁民	B漁民	C漁民
A漁協	B漁協	C漁協

近隣漁協の連携

A , B , C

A 漁民
B 漁民
C 漁民

連合体を形成

B漁協

A漁協

C漁協

演習問題

日本の漁業権漁業は世界に類をみない制度 だと言われる。漁業権漁業の仕組みについ て,次の点から検討してみよう。

> 漁業管理の地方分権制 伝統的な漁場利用を制度化 漁協制度